2022年3月15日

報道関係各位

GMO メイクショップ株式会社

「MakeShop byGMO」の年間流通額が 10 年連続 ASP 業界 No.1 に ~コロナ特需で急成長した前年をさらに上回り 2.749 億円と過去最高を達成~

GMO インターネットグループの GMO メイクショップ株式会社(代表取締役社長:向畑 憲良 以下、GMO メイクショップ)は、ネットショップ構築 ASP サービス「MakeShop byGMO」(URL: https://www.makeshop.jp/)において、2021 年 1 月~12 月の全ネットショップにおける年間流通額が前年比 117% 、過去最高の 2,749 億円に達しました。これにより、国内の EC プラットフォームのうちパッケージやオープンソースなどを含まない ASP の業界で、10 年連続 No.1 $^{(*1)}$ となりましたのでお知らせいたします。



(※1) 流通額=受注金額。ネットショップ・EC サイト構築サービス運営企業各社の発表数値より、ASP サービス単体の数値を算出し比較(自社調べ 2022 年 3 月時点)

【流通額増加の背景と傾向】

2020年以降、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う巣ごもり消費需要の増加から、EC 市場は急成長を遂げています。経済産業省の市場調査によると、2020年の物販系分野における BtoC EC 市場規模は 12兆2,333億円となり、伸長率 21.71%と大幅に拡大しました (※2)。「MakeShop byGMO」でもコロナ禍での EC 需要の増加が後押しとなり、2020年の年間流通額は前年比 135%の 2,343億円となりました。消費行動のデジタルシフトが加速したことから、EC 需要の高まりは一時的な変化にとどまらず成長を続け、2021年の年間流通額は急成長を遂げた 2020年よりさらに増加し、前年比 117%の 2,749億円となり、過去最高を更新いたしました。

■売れている店舗が増加し、法人から高評価

GMO メイクショップの 2021 年の流通額が過去最高となった背景には、EC 化の流れからの契約数増加とともに、1 店舗当たりの売上も増加していることがあげられます。

「MakeShop byGMO」は、販売手数料が無料で、日本の商習慣にマッチした豊富な機能が全て使える『プ

レミアムショッププラン』でも初期費用・月額費用ともに 11,000 円 (税込) と低価格ながら本格的な EC サイトを構築・運営できることが評価され、導入店舗数が増加を続けています。 2021 年末時点の導入店舗数は前年比 108%となりました。

また、2021 年 12 月の『プレミアムショッププラン』以上の各店舗における月商規模別の分布データでは、月商 100 万円~500 万円未満の店舗数は前年同月比 110%、月商 500 万円~1,000 万円未満の店舗数は前年同月比 116%と大きく成長いたしました。月商 1,000 万円以上のレンジにおいても増加傾向となっており、しっかりと売上を獲得している店舗が増えていることが読み取れます。

このように、低コストで本格的な EC サイトを構築し売上の獲得を目指せることから、「MakeShop byGMO」は本気で EC ビジネスをおこなう法人のお客様より高く評価をいただいており、法人契約数は 10,000 社 (**3) を突破しています。

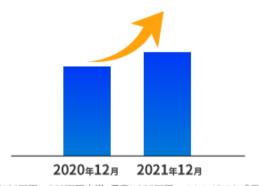
月商500万円~1,000万円未満の店舗数

前年同月比

法人契約数

116%の高成長

10,000 社以上



月商100万円~500万円未満、月商1,000万円~のレンジでも成長傾向



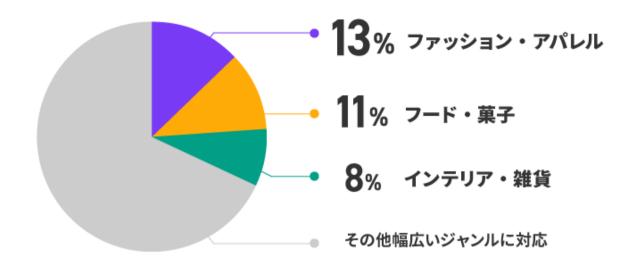
■「ファッション・アパレル」、「フード・菓子」ジャンルが牽引

2021年の流通額をジャンル別に見ると、「ファッション・アパレル」ジャンルの流通額が最も大きく全体の13%を占めています。この傾向は、販売予告機能などアパレル店舗からの要望を取り入れた新機能の開発や、自由度の高いデザイン編集機能の提供など、「MakeShop byGMO」が以前より取り組んできた、「ファッション・アパレル」ジャンル向けの機能強化施策の成果が背景にあると考えています。

また、「ファッション・アパレル」に次いで流通額が大きいのは「フード・菓子」ジャンルで、全体の 11% となりました。この傾向は、2020 年以降コロナ禍での外出自粛により飲食店の利用を控える人が増えたことに加え、飲食店の営業自粛・営業時間短縮の影響から EC 化による販路拡大を目指す事業者が増加したことが要因となります。「MakeShop byGMO」では、2020 年以降、大手外食チェーンや飲食店、食品メーカーによる新規導入が目立ちましたが、このような店舗が 2021 年も継続して売上を伸ばしていることも「フード・菓子」ジャンルの成長に影響していると考えられます。

その他にコロナ禍における特徴的な傾向としては、「インテリア・雑貨」ジャンルの成長もあげられます。 外出自粛によりおうち時間を充実させるため、インテリアにお金をかける人が増えたことから 2020 年以降 大きく成長しており全体の 8%を占めるまでになりました。

2021年流通額のジャンル別構成比



- (※2) 経済産業省「令和2年度 産業経済研究委託事業(電子商取引に関する市場調査)」より
 - URL: https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/statistics/outlook/210730_new_hokokusho.pdf
- (※3)「MakeShop byGMO」の『プレミアムショッププラン』以上をご利用中の法人契約数(自社調べ 2021 年 10 月時点)

【流通額増加に向けた今後の取り組みについて】

消費行動のデジタルシフトが加速したことにより、ECの社会インフラとしての重要性はさらに高まっていくことが見込まれます。GMOメイクショップは、引き続きショップ運営者が売上を獲得しやすい環境を整備していくため、管理画面の改善による運用効率化や越境 EC 支援など販路拡大に向けた支援策の強化、外部サービスとの連携強化などを進めてまいります。

今後も GMO メイクショップは、ショップ運営者の売上の総和である流通額を最重要指標として、売上拡大の支援と、その結果としての流通額増加へ向け取り組んでまいります。

【GMO メイクショップ株式会社について】

GMO メイクショップは、「Commerce for a better future./商取引でより良い未来に」をミッションに掲げ、ネットショップ構築 ASP「MakeShop byGMO」を中核とした EC プラットフォーム事業や、マーケティング支援事業、EC 運用受託事業を展開しています。

「MakeShop byGMO」は、2021 年には年間流通額が 2,749 億円に達し、10 年連続で業界 No.1 を獲得しました。また、主軸となる『プレミアムショッププラン』とカスタマイズ対応 EC ソリューション「GMO クラウド EC」の『MakeShop エンタープライズプラン』を合わせた導入店舗数が 2021 年 7 月に 11,000 件を突破いたしました。

今後も GMO メイクショップは、広範な EC 領域において、店舗様が抱える様々な課題を解決できるよう、 サービスの強化を図り、国内の EC 市場の活性化に貢献してまいります。

以上

【報道関係お問い合わせ先】

●GMO メイクショップ株式会社 管理本部 広報担当 戸恒

TEL: 03-5728-6227 E-mail: pr@ml.makeshop.jp

●GMO インターネット株式会社

グループコミュニケーション部 広報担当 新野

TEL: 03-5456-2695 E-mail: pr@gmo.jp

【サービスに関するお問い合わせ先】

●GMO メイクショップ株式会社 サポート窓口

【GMO メイクショップ株式会社】 (URL: https://www.makeshop.co.jp/)

会	社	名	GMO メイクショップ株式会社
所	在	地	東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号 セルリアンタワー
代	表	者	代表取締役社長 向畑 憲良
事	業内	容	■EC プラットフォーム事業 ■EC 運用受託事業 ■マーケティング支援事業
資	本	金	5,000 万円

【GMO インターネット株式会社】 (URL: https://www.gmo.jp/)

会	社	名	GMO インターネット株式会社 (東証第一部 証券コード:9449)
所	在	地	東京都渋谷区桜丘町 26番1号 セルリアンタワー
代	表	者	代表取締役会長兼社長・グループ代表 熊谷 正寿
事	業内	容	■インターネットインフラ事業 ■インターネット広告・メディア事業
			■インターネット金融事業 ■暗号資産事業
資	本	金	50 億円

Copyright (C) 2022 GMO MAKESHOP Co. Ltd. All Rights Reserved.